
三人揃えば平気なの？

f j 野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三人揃えば平気なの？

【Nコード】

N2867BA

【作者名】

fj野

【あらすじ】

とある馬鹿な三人が
Fate/zeroの世界観を
爆発させません。嘘だけど

00 自己紹介

自己紹介

立花 春日

（タチバナ カスガ）

15歳の女の子。

180近い身長なのが
かなりの傷になっているよ
一目見て男子と言われると
タツクルを食らわせて来る
んだけど、それが凄い
破壊力なんだよ。
シヨートに一房だけ長い
髪の毛がね
トレードマークだよ。

秋葉 夏

（アキバ ナツ）

15歳の女の子。

155で身長が止まって
カルシウムと寝言で
言うほど傷を負っているよ
チビって言う目潰しを
するよ、威力が高いよ。
シヨートカットに前髪を

上げないと貞子と
呼ばれるよ

奏 光

（カナデ ヒカリ）

15歳の女の子だよ。

160の身長に不満を

抱く腹黒な子だよ

ポニーテールを王道と

ツインテールを邪道と

謎な定理を持つ

眼鏡ちゃんだよ。

怒ると般若様が降臨するよ

とても怖いよ

んにゃ、三人は

オリジナルで作りました。

頑張った。

ギャグが高いかも。

余談に三人は

同じ高校だよ。

01 遠坂邸にて

冬木市にある遠坂邸

そこには、居候である

三人の馬鹿がいた

もう、誰にも止められない

馬鹿、馬鹿が！

「聖敗戦争つてなんだぬ、
はなはな？」

今、はなはなこと立花春日に
お馬鹿なクエスチョンを
出したのは秋葉 夏。

学校でも担任を悩ます馬鹿
である。

「戦争つて重火器ばんばん
勝ち抜き大会やる、光？」

御丁寧とは言いがたいが
今、夏に返答をしたのは
春日である。

かなり怖い返答が
返ってきた。

彼女は、自分を馬鹿とは
認めないお馬鹿様である。

「違う、聖杯、聖杯。
願望機と呼ばれてて、
聖杯の導きにより
令呪を貰った魔術師による
死闘。

たった一人の願いしか
叶えないケチ機械。」

聖敗を聖杯と直し、
願望機と説明したのは良い
だが、その願望機とケチと
彼女が最後のお馬鹿様。
無自覚馬鹿である。
一番質が悪いのである。

言う。

「へー、それを魔術師が
競うんだぬ！ぬはははーい」

やっと理解したらしい。

「でさ、話は変わってさ
なんでぐるんぐるん
してるん？」

「言峰綺礼って人可哀想」

「親父どもに囲まれて
ぬはははははは！」

三人は、二階の柵から

見下ろしていた

その頃下では

「あの馬鹿達」

頭を抱える遠坂家、
当主の時臣。

「　　凄い人達ですね。
彼女達が私の姉弟子ですか？」

真顔で聞く言峰綺礼が
いた。

（ぬはは！話終わったかぬ）

（時臣！暇や、暇、暇、暇）

（滑稽だったぞ、馬鹿臣。）

（君達は、何がしたいの）

（（（時臣弄り！）））

（弟子ではなさそうですね）

02 召喚

ついに遠坂邸で召喚の儀式が行われた。時臣に届いたのは蛇の脱皮の化石

「来れ、天秤の守り手よ」
時臣の声がドア越しに聞こえる。

「儀式始まったぬん。」

「なんのサーヴァントが来るんやろか？」

「アサシンは、綺礼だもんね」

皆で想像中

：

「夏は、ランサーだぬん」

「ウチは、アーチャーやな」

「私は、キャスター」

皆違う回答。

「皆はどうしてそれを選んだんや？」

「そこにあつた魔導書を引き千切つて何がいいか丁度良い場所にペンがあつたから目を隠して選んだぬーん」

「私は、馬鹿臣の性格を考えに考え抜き、娘を桜ちゃんを売った奴なら此れが来ると」

「へえ、そうなん。
私は、なんかそんな感じがしたからやなあ」

「君達。何時の間にそんなことをしてたの。」

「「「あ、おかえり馬鹿臣」」」

「君達。もつとましな歓迎の仕方はないの？
そして夏、光は後でたつぷりと説教だ」

召喚も終わったのであろう
時臣が召喚していた

部屋から出ていた。

「うるせえよ、馬鹿臣
召喚したサーヴァントの
位置は？キャスターなら
ざまあみる馬鹿鹿って
言ってやるからさ。」

「さつきからなんだぬん。
金色の粉が邪魔だぬん！」

時臣は待つてましたと
言わんばかりに目を輝かせた

「我々が儀式により
召喚をしたサーヴァントは
古代最古の王だ。
我々の勝利だ！
そして位はアーチャーだ
残念だったな。」

「当たったやん！
やったわー＼（ハ－ハ）／」

「惜しかったぬーん」

「馬鹿臣の癖につ」

光は、悔しそうに

夏は、これから始まる
説教に

春日は、当たった嬉しさで
色んな反応をしていたが
3人は一斉に固まることと
なる。

「早速仕事だ。
英雄王の世話を頼みたい
退屈させないようにな」

「「「え 嫌」」」

「ならば説教だ。今回は
綺礼からのだな。」

「「「丁重にお預かりする」」」

かくして、3人は無事
英雄王の世話することと
なった。

（この我が空気だと）
（申し訳御座いません、
英雄王）グリグリ
（痛い、こめかみ痛いっ！）
（あほ臣、痛いぬーん！！）
（おもしろいわ！）

03 初めまして、英雄王！

心配だから偵察をしてくれ
我がマスターが

言っていたから偵察を

してい るのですが

英雄王、ギルガメツシュに
早速会うつと

「 なんや、この金ピカ」

「私に言われても 困る」

「お兄さんが粉を
撒き散らしていたんだぬん」

会ってそうそう

失礼な態度を取りました。
彼女等は、

逝きたいようです

ハサンの記録より抜粋

「我は、古代最古の英雄、
ギルガメツシュである。」

「 ギルガメツシュって
デニツシュみたいな
名前だぬっ むぐうっ」

「黙つとき！死にたいんか
逝きたいんか！？」

早速、馬鹿丸出し。

オロオロしています。

英雄王のツボに

入ったようですね。

爆笑しています。

「貴様等のような雑種
実に我の寵愛を ぶはっ」

腹を抱えて

笑いだした英雄王。

早速気に入ったようです。

死ななくて良かったです

「そのメソポタミアって
とこの王だったぬん」

「その威圧感の意味が
解った気がしたわ」

「ふーん、長い名前だね」

「貴様等、面白い！
名を呼ぶことを許そう」

「わーい、ギルギルだぬん」

「普通にギルガメツシュやわ」

「ギルガメツシュって呼ぶ」

気に入られると

早いんですね、ふむ。

夏さんの馬鹿ぶりには

英雄王も珍しいものを見る
目付きでした。

「暇だからUNOで
遊ぶぬん！」

「ほお、偉いぞ雑種！」

「負けたらえげつない
罰ゲーム付きや!!」

「負けるものか！」

えげつない？

一体どんな罰ゲーム

なのでしょうかな？

恥ずかしながらハサンめは
気になります。

「ギルギル、16枚カード
引くんだぬん」

「折角1枚になったのに、

春日、夏、光！貴様等！」

「王様も弱いやん！ははは」

「いけない、春日があがる」

「させるか、雑種！」

白熱しているようです。

あの英雄王もカードには弱いみたいです。

それにしても、ゲームとなるとあの3人は強い。

「ふはははは！勝ったぞ！」

「勝ったぬぐん！」

「春日、残念ね。」

「マジ無いわー！罰ゲームなんやの！」

「間桐さん家の蟲が入った箱に手入れるぬん」

「え！？」

「残念だったな春日。」

「蟲に食われる。うえ。」

私も嫌です。

夏は、何を考えているのか
解りません。

ある意味それ何処から
仕入れたのですか？

蟲蔵にあるはずですが

（嫌や！）

（ぬんぬん）

ズボツ

（あゝあゝあゝ！？）

（雑種の考えることは
恐ろしい）

（夏は、馬鹿だけど
ゲームは天才なんだ）

（えげつないな）

（綺礼様、彼女が怖いです）

04 立花春日とセイバー陣

「買い物に行ってきた
くれないか。」

この時臣の一言から

立花 春日の一日は始まった

「実は、王が鍋が食べたい
と言つてな、食材を
買つてきて欲しいんだよ」

「何で、私だけやねん。

夏や光もあるやんかー！」

「夏は部屋から出てこないし
光に関しては嫌の一言でな」

「つまり、余った最後、か」

「そう言うことだ。
宜しく頼むよ。」

つてな訳でスーパーに
いる訳だが

何で、セイバー陣営が
呑気に買い物してるん？

「アイリスフィール、

お肉が食べたいです！
後、この松坂牛、ヒレ肉に
このササミも！！！！」

「あらあら、良く食べるわね
セイバーったら」

「まだ、食べ足りません、
戦に備えて もももも」

「セイバー！試食品は
逃げていかないわよ！！」

なんか、平和やな。
さて、肉も買わなあかんか
嫌でも会ってまうわ
んー、でもどないしょ

「ももももも ん！
貴方は、さつきから
ちらちらと此方を見ますね
まさか、このお肉を！！」

「へ？！違う、違うんや！
うん、ああああ
其処にあるお肉を！
取りに行こうと思てな！」

なんか、苦し紛れの言い訳
みたいやな

相手は、騎士王やし

私、死んだ、フラグ立った

「あら、セイバー 私達
邪魔だったみたいよ？」

あれり？

「あ、失礼しました。
此れですか？アメリカ産の
198円のお肉。」

「あ、それや！うんうん、
ありがとー！助かったわ」

私の命も。

「さて、そろそろお会計ね
お財布 あ。」

「どうしましたか、
アイリスフィール？」

ん、何が起きたんやろ？
乗り掛かった船や、
見に行こか。心配やし

「お財布忘れちゃった、
えへへへ」

「アイリスフィール!？」

我慢できなくって。

「どないするん？」

「「あ。」」

「すみません、
助かりました」

「本当にご免なさいね
いつか、返すわ!」

「ええんよ。馬鹿臣の
お金やし!」

奢りました。
仕方無いじゃないか。
可哀想だったんだもの
しかも、道のりも一緒
私の方が近いみたいやけど

「本当にありがとう」

「ご迷惑をかけました」

「いいんよ、あ 着いた」

時間がたつのは早いものや
あつという間やったもの。

「ほな、また〜」

「またねー！」

「お金はいつか返します」

また、会えると良いなあ
うんうん。

（アイリスフィール！）

（何、セイバー？）

（彼女が入って行った家
遠坂です！）

（え？！令呪無かったわよ！？）

05 ランサー陣営と秋葉夏

やばいぬん。

なんで、ランサーに

担がれているぬーん！

何で、何でさああああ！

蟻ん子の行列を凝視してて

全く気配なんて知らなかった

けどぬん（´・・・）

俵みたいに担ぐのは

吃驚だぬ

しかもここ何処よ

なんか石だらけ、瓦礫

ぬぬぬぬぬ！

なんか、電波バリ3だぬ

「これが遠坂時臣の家に
居たのか、ランサー？」

「はい、我が主。蟻を
見えました」

「蟻を 何故だ。」

「わ、解りません」

捕まったのは、
ケイネス率いるランサー陣営

遠坂時臣の事をもつと詳しく
知りたいらしいので
夏をつれてきたらしい

「さあ、小娘

遠坂時臣について教えろ」

「ぬーん。娘売った酷い
ダディだぬ！後は
余裕ぶつてるアル中！」

「「はい？」」

「サーヴァントにも
雑種！って言われてて
ダサイスーツ来てて
偉そうなのに、弱くて
ロリコンでー弟子より
弱くてぬーん（・・）」

「我が主。

これ以上聞いても、
無駄な気がするのですが」

「う、うむ。

私もそう思えた所だ。」

「それに、ボツチだぬー
可哀想な人だー！
凜ちゃんって娘の写真見て

凜、お父さんは会いたい
だなんて独り言を言つてて
とても気持ち悪かったぬん」

「こ、こここれ以上聞くと
その遠坂時臣が可哀想に
聞こえます、主よ」

「そ、そそそそうだな。
もう、いい いいから」

「それにサーヴァント見て
我々の勝利だ！なんて
ふざけたこと言つてたぬん
まさに馬鹿臣だったぬー！」

「
主よ」

「もう、お前（夏）帰れ」

（どこ行つてたんや！？）
（ランサー陣営とこぬん）
（何聞かれたの？）
（馬鹿臣について！
だからこじんじょーほー
ろうえいとやらをしたぬ）

（と申ししていました

（綺礼様）
（そうか）

06 奏 光とライダー陣

しまった ああ 足が
足が動かないよおお

うがあああああ

奏 光の不覚！

まさか玄関までおよそ

850mの地点で

転ぶなんて

足が、ヒリヒリして

動かないよー

誰でもいい 良いから！

私をあの暗い家に帰らせて

下さいー お願い

ちらちらと通りがかる

人達にイライラしてます。

助ける、馬鹿野郎共め！

私の膝 感覚がないよ

ひゃああああ

「ん、なんだ。大地になんぞ
寝そべりおつて！

何だ、どうしたのだ。

余に言ってみるがよいぞ！

この征服王イスカンダルに」

「何、自分の真名を赤の他人に言つてやがりますかこの馬鹿わあ！」

ん？私の周りが暗いな
え、誰、ひょろんモヤシ
え、誰だデカブツ。

「誰だ、デカイオツサン。
と、ガリガリモヤシ。」

いけない、つい本音が

「お前、もう一寸で足に
小さな石が一杯入つて
取れなくなつてしまつてた
じゃないか！この馬鹿が！」

「余が通つて良かったな
小娘。」

「いや、助かりました。
後、家まで運んで下さると
もつと助かる！」

彼らは、聖杯戦争で
三大騎士クラスに零れた
ライダー陣営らしい。
いや、助かった。 彼らは、今の私に

天使に見える

「なんだ、何処だ？
余達を送ってやろう！」

ゴツいのがいるがな

「はああああ？！お前つ、
今日は作戦会議だっへぶっ」

「小さき小娘を助けるのも
王の器として計れるのだぞ」

「ん 直ぐに帰る
お前送っていったら直ぐ
帰るからな！！」

お、よっしゃ、
帰れる！わーい！

「で、何処だよ。
分からないと運べないだろ」

「あそこ。850m先の
気味悪いお家！！」

「」
「」

「え、ちょ！
置いていかないでよ！

ちよつと！」

「早く帰って作戦会議だ
小僧。」

「今まで潰した時間
取り返すからな！」

なんだろう。

この不幸

絶望したっ！！

（あ、いたいた）

（遅いぬん！何、地べたに
求婚してるんだぬ？）

（歩けないんだ、ばーか）

（でも、足。

治されてるやん、運んで
貰えなかったん？）

（まさか、帰られたりして
とかだったりぬーい！）

（ そのまさかだ）

07 隣の叔母さん

「でさ、クー・フリーンがね
とっても格好良いのよ！
うん、あれでさご飯三杯は
いける！！うん！」

私達が思ったのは

（（（ ハイテンション ） ） ）

お隣の叔母さん は、
凄く明るい性格だ。

名前は、森下 優希さん
年齢は、永遠の17歳
夢は、ケルト神話にでる
クー・フリーンと
結婚をしたいっ！ と
語っていた。

たまに会うと熱弁が
繰り広げられる
美人なのにその性格で
お見合いを断られた回数
なんと6回。
なんとも残念な美人さんだ
と、私たちは思う

「でさ、私はその世界に

行つて結婚したいのよ。
分かる？ねえ、聞いているの
春日、夏、光っ！」

「はいはい、聞いている
またトリップとか
んな下らないことを
しょーもない婆さんやな」

「タイムマシン作るかぬ？
でも脳外科に行つてきて
異常がなければ作るぬん
じゃなきゃ、大変だぬ
妄想に花が膨らみ」

「いつか爆発して終わりー
とかさ、叔母さんなら
有り得るって！」

「こんの、糞餓鬼ども！！
お姉さんは永遠の17歳
アイドルなんだから！」

「松田聖子かなんかやるか」

「痛いし可哀想だぬん」

「現実みたらー？？？」

「ぐあっ 痛いところを

付いてくる糞餓鬼どもめ！」

数日後

「ランサーを見たよおお
ひやはああああああ！」

隣の叔母さん、狂乱中

「デイルデイルだぬん」

「あー、今回のランサー
か。」

「飛び回りまくりやんか、
あのままじゃスピンして
床から滑って落ちるわー」

「でも、クー・フリーンじゃ
無いから愛はないわー。
本当に残念 チッ」

「舌打ちした！？」「」

（クー・フリーンよオー！
舞い降りるオオオオオ！
アチャアアアアア！）
（朝から五月蠅いやんか）

(ぬぬぬぬぬ)
(アッ!?)

(五月蠅いし
寝れないじゃないか)
(おい、雑種!
隣が五月蠅いぞ!!!!!!
バビっていいか?!)
(王、そのパジャマセットは
何ですか。それとバビる
って え!?)

(アサシン み みせん)
(ああ!)
耳がああ
(耳が)
(アサシン死亡)

閑話 テスト結果

実は、居候の学校は
冬木高校です。

どの高校も単位は最低限
必要な訳だが

ここは、応接室。

椅子と机だけの質素な部屋
そこに学校の担任の先生
赤いスーツを着たこの場に
相応しくない男

「 えつと 遠坂
馬鹿臣さん？」

「時臣です」

「あ 彼女達がそう言うので
それが名前かと
あ、お話があつてここに
来て貰ったのですが」

彼女達は、学校生活面又は
勉学面、出席日数諸々が
足りないので担任の
先生から電話が来て
時臣が来たのだ。

「あの馬鹿娘達が

で、先生。あの子等が

頑なに見せない

テストコピーを見せて

ください」

「あ はい。此れなんですが

点数諸々酷いですよ

私も泣きたいですもん」

机に置かれたテストを見て

絶句した。

立花 春日

数学 10点

科学 7点

物理 13点

現代国語 98点

古典国語 94点

英語 100点

社会歴史 2点

社会地理 21点

社会公民 34点

秋葉 夏

数学 98点

科学 82点

物理 99点

現代国語 24点

古典国語 6点

英語	30点
歴史	47点
地理	31点
公民	11点

奏 光

数学	39点
科学	26点
物理	18点
現代国語	52点
古典国語	41点
英語	76点
歴史	94点
地理	86点
公民	93点

総合評価

立花 春日

E

このままだと単位保留です

秋葉 夏

評価規格外

彼女は規格外です

奏 光

E

このままだと単位保留です

「 評価規格外 が

いるんですが」

「夏ちゃんは授業の時
爆発させたり紙飛行機
飛ばしたり」

「　　そうですか。」

「春日ちゃんは　いきなり
ぶち切れたり　男子が
デカブツ！と言ったから
でしょうが」

光ちゃんはテストの欄に
ポニーテール王道！
ツインテール邪道！
と書いていたり

時臣さん？」

「　　分かりました
家で説教します。」

（ん！時臣やんか　ぎゃ！）

（ぬゝ！？ぬゝーん！？）

（髪引つ張るな！痛い痛い！）

（馬鹿娘、担任の先生が
君らのテストを見させて
くれたよ。）

（なっ！？なんやて！）

（点数バレてるぬん！？）

（は！？）

08 倉庫での出来事

「やはり、戦い見物は
倉庫の上からやなー！」

「ぬーい！」

「んー、夜の弁当も
おいひいね もももも」

「ふん、余興には丁度良い」

ここは、冬木の港町にある
倉庫。その倉庫の上には
本編の主人公の馬鹿娘達と
AU王ギルガメッシュが
いた。何故か弁当持参で。
只今、ランサーとセイバー
戦っております

「倉庫の上から見ると
サーヴァントで在ろうが
ゴミ屑のようやんかー」

「ラピ〇タの〇ス力だぬん」

「ム〇力だねえ
もっと本格的にさあ

ふはははははは！

人がゴミのようだ！って」

「ぶほあっ
」

「光がやるとき リアルに
聞こえるんやけど」

「
怖いぬん！」

「糞臣になら本気で言える
自信がマジ1000%ある
そして、ギル君。
ワインを吐くな！」

呑気に三大騎士クラスの
戦いの最中、お弁当を
食べる人は居ないだろう
こいつらを除いて。

「人がゴミ ふははははは
まさにその通りだ
だが、貴様が言うと
この我でも背筋が凍るぞ」

「え、そんな怖い？」

「ぬんぬん！」

「怖いに決まっとるやん！

それに「王とは認めん！」
は！？」

「あ、あれはライダー」

「ん？何だと。気に食わん
行ってくる。我以外に王を
名乗る不埒者めが」

「行つてらっしゃいぬーん
ギルギルの唐揚げいただき」

「む！？デカブツの唐揚げ
いただくぞ！」

「誰がデカブツや！」

「貴様 春日！タツクルは
止めるおおおおお！」

「王を名乗るのは
天上天下唯我独尊、我一人
だけだ。」

「お、ビシツと決めとるやん」
「今さっきまで唐揚げの
取り合いだぬん」

「んー、そだねー」

只今、倉庫の上から降り
家政婦は見た状態の3人
下から夏、光、春日だ

「これからどうなるので
しょうか、夏さん」

「ぬーん はなはなからの
バトンタッチで私だが
ギルギル優勢かぬ？」

「うお！？バーサーカー！
凄いもやもやんしてる」

「どれだ、見せてや！」

「ぬゝ！？見たいぬん！！
邪魔だぬん！」

「どうあつ！ヤバイ、
コケる！」

「此方来るな、馬鹿野郎が
あああああああ」

「ぶぎやつ」

ドシャアアア

下から夏、光、春日だ。

他のマスターや

サーヴァントもいきなりの

登場に驚いている

それと余談だが夏は下敷きである

（夏が死んだ！）

（え？！）

（ちーん（死亡））

（（（（（なんか見たことある
こいつらを！）））））

（おい、下敷きに

なっているぞ、夏が）

（ギル君 助けてよ）

（何故我が？）

（ちょ、堪忍な！夏！）

09 倉庫での出来事2

「あ、今晚和。お邪魔ね
しやしたー、てへぺろ」

「三途の川に夏が！」

「おい、もう渡っているよな
死んでいるよな」

「英雄王。助けてや」

「え、私の宝具にそんなの
あつたっけ？」

「バビればいいじゃん」

「んむ。鎧邪魔だな、オイ」

いきなり、シリアスムード
からのギャグ展開。

しかも、宝具ジャマーで
私服にチェンジした英雄王
こんなのが古代最古の
なのだろうか、と

周りにいるサーヴァント、
マスターは疑った

「あ、あるやん！

「この金ピカの入れ物―」

「それは、蛇にやった
不老不死の薬だ　春日。

あ、あつたぞ!!

緊急箱。」

「ここは、白と赤のお決まり
じゃなくてさ、金ピカに
しようよ。」

「其処に金とかかけたくない
これ我の本音。」

「周りがポカン、啞然と
している間にテキパキと
夏を治療している。」

「頭に包帯が巻き終えた頃

「じゃ、家に帰ろうか」

「私も帰ろう。興醒めだ。
貴様等がいいタイミングに
はいつてきたからな。」

「入りたくて入ってねーよ
馬鹿王。」

「む、この我が馬鹿だと。」

有り得ん！家に帰ったら
学力ですと、とやらを
貴様等に布告してやる！」

「う、うん。」

「あと夏をデカブツ。
おんぶだ。」

「知つとるわ、ギル」

よっこいせ、と日本人特有
スキル発動。

夏は、気持ち良さそうに
眠っている。

「ふあああああ
眠いぞ、帰るぞ我は」

「深夜だもんねー」

「じゃ、TPOを弁えて
楽しくバンバン殺つて
下さいなつと
私を置いて行くなや！！」

問題児4人は、スタスタと
倉庫から帰っていった。
倉庫に残された人と
英霊達は

（主よ。蟻の少女が
いました）

（ランサー。言うな
涙が出てくる）

（アイリスフィール
彼女にお金を返し忘れて
しまいました！）

（あ、セイバー！
追いかけなきゃ
財布忘れちゃった）

（アイリスフィールッ！？）

（余をゴツいと言った
小娘が居たぞ、坊主？）

（850mだけなのに
助けを求めた奴な）

（あ、アイリの財布。舞弥）

（切嗣。マダムがオロオロ
していますか？）

（え？！どうしよう舞弥）

（届けて下さい）

（え、嫌だよ。僕、原作じゃ
こんなじゃないし）

（知りません。）

（え、舞弥 代わりにとか）

（嫌です）プツン

（無線切れちゃった。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2867ba/>

三人揃えば平気なの？

2012年1月14日21時54分発行